

地方だより

—尾鷲測候所—

尾鷲市は紀伊半島の東南端にあり、東に太平洋を望み、背後に大台ガ原山を初め紀伊山脈の急峻な山々を控え、南東からの暖湿な気流をまともに受けやすい地形となっているから、全国屈指の多雨地で、年間平均雨量は4,158mm、最大日降水量は598mmという記録が生れている。またV字状に開いた尾鷲湾には、過去数次にわたり大津波の来襲を受けたが、最近では昭和19年12月7日の東南海地震に甚大な被害を受けている。

当地方の気象観測は、明治35年1月1日より三重県北牟婁郡役所内で開始され、大正10年10月より津測候所尾鷲出張所となり、さらに昭和14年6月25日には、尾鷲測候所が創立された。以来尾鷲特有の豪雨・地震・津波等の観測業務を日夜黙々と続けている。

尾鷲の主な産業は漁業と林業である。漁業は熊野灘の漁場を控え、有名なぶり漁場は九鬼漁場を始め7続を数

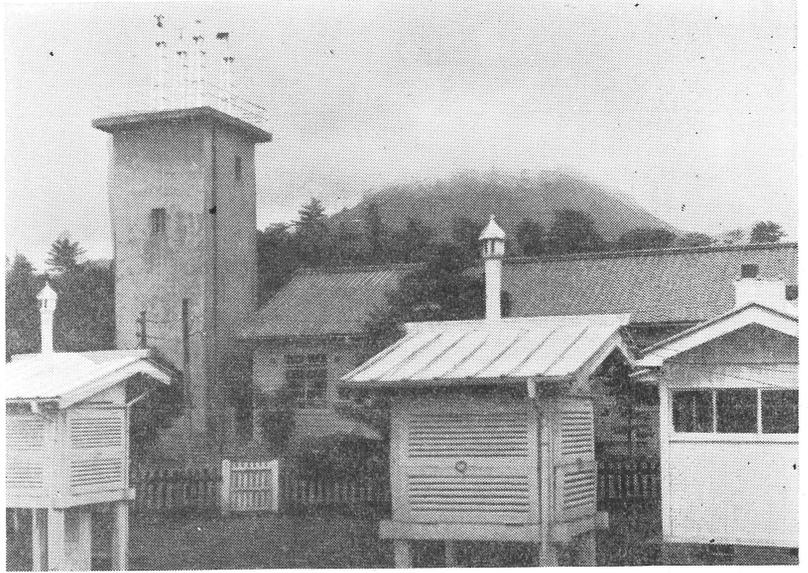


写真1 尾鷲測候所

えている。遠洋漁業も年毎に拡大され、尾鷲港はかつこの指定基地となっている。林産は主として杉檜の用材林が多く、尾鷲材としてその材質を認められ全国に名声を博している。

尾鷲民謡の由来

尾鷲神社の祭礼の歌として伝えられる尾鷲節は、大阪夏の陣に敗れ尾鷲の里に身をひそめた真田の残党が、悲憤の涙を歌に託したといい、また一説に熊野海賊のかちどきの譜であるとも伝えられるが根拠はない。いづれにしても、毎年2月1日から8日まで行われる祭礼の行事や踊の服装をみても、相当古いものようである。

1. 尾鷲よいとこ 朝日をうけて ヨイソレ
浦で五丈の網を引く ノンノコサイサイ
ヤサホラエー ヤサホラエー
2. ままになるなら あの八鬼山を
歎でならしてかよわせる
中村山のお灯明あげ 国市の
国市様の夜ごもり (堀口真澄記)

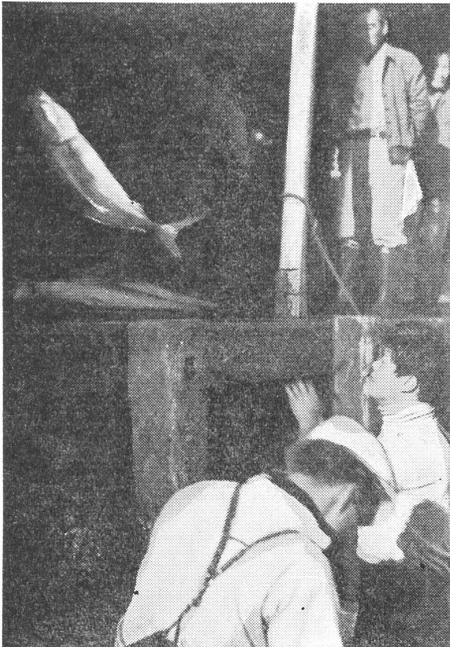


写真2 ぶりの水揚げ



写真3 尾鷲節おんど